

## 平和祈禱会礼拝説教要旨 「平和を求めて」

神の似像として創造されたときの神と人、及び人と人との関係は甚だ良かった(創世記 1:26, 31)。にも関わらず、なぜ人と人が傷つけ合う世界になってしまったのでしょうか。それは人間の神への反逆から始まっており(同 3 章)、最初の殺人が家族内で起こったのです(同 4 章)。では何が原因で争いが起こったのでしょうか？ それは人間の欲望によるのです(ヤコブ 4:1-3)。しかしその罪の故に、争い合う人間のために、旧約の預言の通り神様はメシヤ(キリスト)を誕生させて下さったのです。それはイエスの十字架による贖罪愛によって人の罪を解決し、自然界(動植物を含め)をも回復するためであったのです。その功によって旧約聖書に預言されている真実な平和が実現するのです(イザヤ 2:4, 11:6-8)。戦争の武器が終わりの日に平和産業に変えられる希望が約束されているのです。

私は 1940 年に生まれ、翌年 12 月 8 日に真珠湾攻撃により日本が戦争に突入しました。戦争の時代はラジオ放送も新聞も報道管制が敷かれ、日本が勝ち続けていると報じられ、国民はそれを信じ込まされていたのでした。軍部に握られた国の恐ろしさを今更のごとく覚えさせられます。

私は、1945 年(昭和 20 年)7 月 10 日(火)に姫路空襲があり甚大な被害を受けた情景を、山の向こうから眺めていただけでした。高校生の時、広島出身の教師が原爆の悲惨さを強調しておられたことが印象に残っています。神学校に入学した時、教会の一室でベ平連のための祈り会が持たれていました。そこでホーリネス系の教会と教師が弾圧を受けたことを聞き、衝撃を受けました。

その弾圧は 1943 年 6 月 26 日に起こったのです。日本基督教団から第 6 部の教職籍を剥奪され、教会の解散命令が出され、97 人の牧師が連行され獄中生活を余儀なくせざるに至り、信徒は離散してしまったのです。そのきっかけになったのが、1942 年に和歌山出身の小山宗佑(1916 年 1 月 2 日-1942 年 3 月 23 日)という青年牧師が函館の教会で、護国神社を参拝しないと密告されて捕らえられ、獄中で翌年に 3 月第一回公判(不敬罪)後に官憲に拷問されて獄死したことなのです。

その後、その第 6 部の教職の小原十三司牧師は **2 年間禁固刑**、小出朋治牧師も禁固 3 年の実刑判決を受けられました。小原牧師は 1945 年 8 月 15 日終戦により解放されましたが、小出牧師は拷問の故に獄死されました。その他多くの牧師及びご家族、教会関係者の方々が弾圧受けられ、今でも弾圧記念祈禱会が行われています。後に日本基督教団は第 6 部の教会、関係者に対して謝罪をされたのです。

今、ロシアによるウクライナへの侵攻、ガザのハマスとイスラエルとの戦争が続いており、世界の方々に分断が起こっております。この時代だからこそ、真実に平和の使者としてこられたキリストによる和解と平和が実現することを祈っていきたく思います。

(2024 年 8 月 播州地区平和祈禱会)